

新型コロナウイルス緊急アンケート(医療機関編)

基本情報

回答：360件

施設分類：急性期病院 43%、回復期病院 30%、維持期病院 10%、介護老人保健施設 8%

立場：管理者もしくは管理者に準ずる者 44%、管理立場でない者 52%

1) 回答内容の特徴的な点

◇理学療法の介入

- ・COVID 陽性の方に対しての理学療法実施は3%が実施しているが、97%が非実施
- ・理学療法介入時に実施する基準があるのは26%、無いのが53%
実施していない理由としては感染予防対策が分からないのが39%、医師の指示がない36%、施設内の規則によるのが33%。感染予防対策が不十分21%
- ・理学療法を実施する必要性については、実施するべきではない・わからないと回答したのは88%であり、実施すべきは12%であった。理由としては自身への感染や感染拡大のリスクが高い。必要性はあるが提供できる体制や医療資源が無い為介入できない、に分かれた
- ・陽性ではない理学療法対象者に対しての理学療法実施方法が以前と比較して58%変化しており、お互いに感染予防策の実施をしながら、密集や外出の制限、実施時間や場所の制限が行われている。活動量の低下や家族や他職種との連携が減少している

◇感染予防対策

- ・予防としてマスクの着用は99%、手洗い・うがいは97%でほぼ実施しているが
グローブ・手袋の使用25%、フェイスシールド11%、ガウンの着用は5%。
- ・実際の感染対策の組織が80%はあるが、ないが12%、わからないが7%
- ・陽性者が出たときの対応策ができていないのが18%、わからないが17%

◇情報収集

- ・厚生労働省、県や市、医師会、看護師会、PT協会、各学会のホームページなど
 - ・院内感染対策部署、上司
 - ・テレビ、友人
- 情報が溢れており、集約や信憑性の吟味ができていない

◇物品不足

- ・マスクの使用が一日に一回以上交換するのが50%に対し、
2,3日に一回は32%、一週間に1回が10%。
- ・マスクの不足95%、消毒剤81%、ガウン50%、フェイスシールド39%、グローブが34%

◇労働環境・心理状態

- ・セルフケアをサポートする部署が職場にあるのは35%、無いが45%、わからないが20%であり、部署によっては実際には機能していない、ストレスや不安が溜まってきている

新型コロナウイルス緊急アンケート（訪問・在宅医療関係）

基本情報

回答：103件

施設分類：訪問看護ステーション 80%・診療所からの訪問 18%・その他 2%

立場：管理者もしくは管理者に準ずる者 46%、管理立場でない者 51%

1) 回答内容の特徴的な点

◇運用・対応状況

- ・訪問理学療法のキャンセルがある施設 86%
 - ・訪問理学療法のキャンセルに対する対応をしていない 30% ※1
 - ・2週間以上休んでいる利用者に対応をしていない 22% ※1
- ※1.セルフトレーニングの指導や電話による健康管理など何も対応していない

◇感染予防対策

- ・発熱なし利用者訪問時はマスク、手指衛生、検温は、ほぼ 100%
 - ・37.5 度未満の発熱者の訪問時、上記に追加している予防策
グローブ 33% ガウンなど 20% ゴーグルなど 17%※2 訪問中止 15%※3
 - ※2.市中感染が広まった場合 P T による媒体リスクが高い、物品不足
 - ※3.体力・機能低下が進む可能性がある、標準予防できれば実施の可能性
 - ・所属施設での統一方針や行動指針がない施設 20%
- 情報提供によりカバーできる可能性

◇情報源

- ・地域の医師会や連絡協議会にて連携をしている施設 19%
- 施設閉鎖に備えたスタッフ連携・物品の共有・地域重症者の件数共有など

◇労働環境・心理状態

- ・訪問業務に対する不安 81%
- 自分が感染源となり利用者と家族に対する感染の不安が多い
- ・勤務している職場の環境 通常 68% 多忙 20% 限界 12%

新型コロナウイルス対策緊急アンケート（通所版）

基本情報

回答：76件

施設分類：通所リハ 65%、通所介護 32%、その他自費診療・び外来クリニック各 1 件

立場：管理者もしくは管理者に準ずる者 44%、管理立場でない者 51%

1) 回答内容の特徴的な点

◇感染予防対策

- ・マスク着用、手洗い・うがいなどの標準予防策は徹底できている。
- ・感染委員会の設置は 75%にとどまっており、感染が疑われる際の指針については、8 割程度が整備されているが、10%程度では指針の有無についてわからないと回答している。

◇情報源

- ・地域の医師会や他の関連機関との連携が取れているのは 16%、取れていないのは 25%、60%がわからないと回答
- ・ホームページからの情報収集先としては、厚労省、兵庫県、神戸市ケアネット、ワムネット、PT 協会、ST 協会など
- ・行政への直接の問い合わせは 12%で、内容は地区内の感染状況の確認、通所事業所における特例の対応について、外国からの帰国者に対する対応、マスク支給について、リハ会議の医師欠席でもリハマネ加算算定可否について（可能との返答）など。

◇不足物品

- ・マスク 95%、消毒液 87%、その他ガウン・グローブなどが不足している。

◇運営状況

- ・利用者減は 92%が実感している。利用者からの自粛申し出による理由が多いが、事業所から自粛を促すところもあり。減少率は、少ないところで 1 割程度、多いところでは 4 割減。
- ・スタッフ配置については、利用者減で余剰配置になっているが 43%、変わらないが 43%

◇労働環境

- ・セルフケアサポートの取り組みを行っているのは 17%、半数以上（54%）で行われていない
- ・マスクが毎日支給は 17%で、支給ありも複数回使用が 42%、支給なしで自分で用意する 26%
- ・出勤可否の判断は、発熱は 37.5 以上で 77%が出勤停止。7 割近くで咳、のどの痛みでは様子を見る傾向があるも、味覚、嗅覚異常では 47%が出勤停止の判断
- ・出勤停止の場合、57%が有給休暇、日数無制限職務免除は 15%、制限ありの職務免除 13%

◇家庭環境

- ・子供がいる場合の保育の状況は、特別保育を利用が 59%、勤務調整して夫婦で対応や両親などをお願いするがそれぞれ約 30%、子どもだけで留守番も約 30%
- ・自身が感染者もしくは濃厚接触者になった場合の準備は、職場に関しては 84%ができているが、家庭においては 68%ができいないと回答

◇心理状態

- ・通所業務での不安は 74%があると回答。個別回答は 56 件あり、不安の表れが強く感じられる。内容は、多くは施設がクラスターになる心配や、自分自身が感染させてしまう不安。また、利用自粛による利用者の機能低下、休業要請などで経営に与える影響や個人の収入が減る不安など。